

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092100033		
法人名	有限会社 ケアサポート山栄		
事業所名	グループホーム こすもす		
所在地	福岡県嘉麻市平山16番地		
自己評価作成日	平成28年2月22日	評価結果確定日	平成28年3月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成28年2月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームこすもすは、落ち着いた色調の木造民家風の建物です。敷地も広く、四季折々の草花が咲きご利用者様の居室からはもとより、食堂に面した広い掃出し窓からもゆっくり眺めて頂けます。また梅、桃、かんきつ類などの果樹も実ります。ご利用者様の目だけでなく口でも季節を感じながら過ごして頂いています。  
こすもすの理念は、「目配り・気配り・心配り」であり、入居者様、そしてご家族の心に寄り添うケアの実践を目指して日々頑張っています。ワンユニットのこじんまりとした施設は、「介護施設」という雰囲気ではなく、入居者様を中心に、ベテランと新人が混じった職員とが、一つの大きな家族のように繋がりが、共に生活をしているという趣です。これからも、ご家族や地域との交流を大切にしながら、入居者様の日々の生活

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から8年目を迎えたグループホームこすもすは、「目配り・気配り・心配り」の理念を掲げ、入居者や家族の心に寄り添うケアを目指している。入院されていた入居者が最後をホームで迎えたいと強く希望し、ホームで最後の週間を過ごされた。病院では食欲のなかった入居者がホームでは笑顔になり、みんなと一緒に食堂で最後の日まで食事をされ、家族から感謝の言葉をいただいている。また、他の施設では落ち着くことができなかった方や、紙に強いこだわりのある方も、落ち着いた生活ができるまでになっている。昨年は管理者の交代や職員の半数の異動があったが、区長から敬老会などの行事のお誘いを受けたり、近所の方とあいさつを交わし、近隣の中学生の職場体験の実習を受け入れ、職員が一丸となって今後も、入居者たちが帰りたくなるホームとして理念の実践が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
59 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **グループホームこすもす**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目配り、気配り、心配りを施設の理念とし、職員会議等で職員間で話し合いの場を持ち、心に寄り添うケアの実践に取り組んでいます。また、地域の方やご家族と接する機会を少しでも多く持つ様心掛けています。	「目配り・気配り・心配り」の理念を共用空間等に掲示している。管理者や職員の交代もあったが、入居者を自分の親や祖父母のように思い、温かい目で動きを観察しながら落ち着いた暮らしを目指している。	今回の職員交代を好機と捉え、日頃のケアを振り返り、理念について話し合われることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	自治会に加入し、区長さんとも連絡を取り合いながら、地域の情報を得、機会があれば行事に参加をしています。また、近隣の方や来客の方への挨拶の励行を心掛けています。	区長から敬老会や獅子舞、八幡様の福引などの行事のお誘いを受けたり、近所の方とあいさつを交わし、収穫中の柑橘類をおすそ分けしたりしている。近隣の中学生の職場体験の実習を受け入れて、日頃眺めている部活のランニング風景までも一層身近に感じるようになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用様の高齢化や介護の重度化に伴い、屋外での活動が困難になっている状況ですが、今後もご家族や近隣の方をご招待してのバーベキュー大会や出来る限り地域の行事への参加が出来る様計画しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度定期的に運営推進会議を行っています。(構成:市職員、区長、民生委員、介護相談員、ご家族代表、利用者代表等)ご家族へも毎回次回の開催のお知らせを行い、参加を呼び掛けています。	運営推進会議は、参加者の可能な曜日に変更したり、全家族に参加を呼びかけ、前回の会議内容をお知らせしている。会議では入居状況や行事報告、地域行事の案内等もあり、交替で出席をお願いした入居者は、「楽しく過ごしています」などと感想を述べている。	参加者の意見をサービスに活かすために、外部評価の結果や提供しているサービス内容を報告し、運営推進会議を通じて、地域からの支援の推進を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者の方とは日頃から電話のやり取りなどで連携を取り合っています。地域包括支援センターや保護課の担当者の方とも必要に応じ連絡を取っています。介護相談員の方も定期的に来所されています。	毎月地域密着型サービス連絡会に管理者が参加し、研修受講や話し合いをしている。市の担当者は運営推進会議の他にも来訪され、情報交換しながら連携を密にしている。2ヶ月に1度、介護相談員を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ防犯の為玄関の施錠を行いますが、日中は開放しています。居室の施錠や必要以上のベッド柵の使用もしていません。外出傾向にある方も職員の付き添いで散歩をすることで気分転換を行うなど、職員がそれぞれの利用者様の個性に合わせた対応に取り組んでいます。	職員研修で身体拘束の学習を行っている。現在、外出傾向のある方はいないが、介護拒否の方が居て、対応を随時話し合いながら身体拘束の無い支援に取り組んでいる。職員は「ちょっと待って」ではなく、理由を話して待っていただけるようお願いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員勉強会で身体拘束についての研修を行い、身体拘束に当たる行為や、身体拘束をしない為の対応方法などを学び、日々の介護に活かしています。身体拘束排除の方針を掲げ、玄関に掲示しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在まで制度を活用した例はありませんが、今後必要となった時に迅速に対応出来る様、勉強会で職員の理解を深め、ご利用者様へも分かりやすい説明が出来、制度の利用のお手伝い出来る様準備しています。	入居時に日常生活自立支援事業や成年後見制度の説明を行っている。現在制度等の活用はないが、先日の職員会議で研修を行い、いつでも相談があれば対応できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、十分な説明を行い同意を得た後、契約書を2部作成し、双方署名捺印を行い、1部ずつ保管します。解約及び改定についても、同様の方法を取っています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来所の際には、事務所にて入居者様のご様子を報告したり、ご家族様の意見や要望をお聞きし、職員全体に申し送り、現場での介護や運営に活かす様にしています。玄関にご意見箱も設置しています。	「突然の管理者の交代で一番、心配したのは家族でしょう」と新管理者は語り、家族の心配を払拭するためにも、来訪時には時間をかけて入居者の暮らしぶりを報告し、意見や要望を伺っている。年に1度、バーベキュー大会には家族の参加があり、家族同士の交流を目指している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を開催し、施設長、管理者および職員が毎回ほぼ全員出席し、意見交換の場を持っています。	職員会議で、気付きや意見を出し合い、より良い介助の方法を話し合っている。会議は土曜日の10時からに定例化し、1時間で終了することで職員の負担の軽減に努めている。夜勤者には申し送りノートで内容を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員個々の勤務形態や労働時間の希望を把握し、施設長と話し合いながら、出来るだけ希望に添える様配慮しています。管理者と職員が良く会話し、ストレスを溜めずやりがいを感じながら働けるよう心がけています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	介護の仕事に対する意欲や前向きな姿勢、職員間のチームワークを大切に出来るかどうか等、人柄を重視しています。年齢、性別等での制限はしていません。職員が無理なく働けるよう毎月の勤務表もそれぞれの希望を聞きながら作成しています。	採用はほとんどが職員からの紹介で、資格の有無や年齢、性別での排除はない。希望する研修や資格取得の研修への参加は、シフトの配慮で応援し、希望休の取得や勤務時間の希望が反映されている。食事会や忘年会で職員のストレスの発散に努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育等については、マニュアルを作成し、職員がいつでも閲覧出来る様にしています。職員研修も行っています。	行政の主催する人権講演会に参加すると共に内部研修で人権教育を実践している。入居者に対する言葉遣いが気になる時には、その場で注意するだけでなく、職員会議で話し合うようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の職員勉強会にほとんどの職員が参加し、質の向上に努めています。外部の研修を数多く受講する事は難しい状況ですが、出来るだけ時間調整をしています。外部研修の結果は職員勉強会で共有出来る様にしています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域密着型サービス連絡会への参加やグループホーム協議会に入会し、同業者と交流し意見交換等を行っています。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のご相談の段階でご本人の思いをよく聴き、疑問にお答えし、少しでも不安が解消出来る様努めます。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人と同じく、まずは意向や要望をよく聴く様にします。ご本人の前で言いにくい事や、ご家族間でも意見がまとまら時などは場所や時間を変え、話やすい環境づくりに配慮します。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをしっかり行い、ケアプランに反映する様にします。職員全員で取り組む事が出来る様、情報の伝達と共有に努めます。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今出来ている事を続けていけるよう、手を出し過ぎない介護を心掛けています。また感謝の言葉や労いの言葉をかけることで満足感、達成感を感じて頂けるようにしています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所の際やお電話等で日頃の様子や行事の報告をさせて頂いています。サービス担当者会議でも定期的にご本人を中心にした話し合いの場を持っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、友人や知人の方達も気軽に尋ねて来られる様な雰囲気作りを心掛けています。電話の取次ぎも行っていきます。外出、外泊の支援も行っています。	友人の訪問や電話での応対、家族と外出継続している入居者もある。年賀状を職員が作成し、それぞれの入居者が自筆で「おめでとう」を書き、家族や友人に郵送している。お正月に帰宅された入居者は早くホームに戻らなければと、予定より早めにホームに帰るなど、ホームが家になったようでと家族は話している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂での食事や、ティータイムの際に入居者間の会話が弾むよう、職員が適宜話題を作る等工夫しています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族の訪問があったり、退所後も時候の挨拶上を出すなどしています。入院された病院へのお見舞い等も行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人とのコミュニケーションを図りながら、日々の状態を観察し、その時々に応じた対応が出来る様心掛けています。	入居時に本人や家族から取得した基本情報から入居者の思いや意向を把握し、ホームでの暮らしや対応を協議している。家族と化粧品を買い物に出かけ、口紅を愛用される方やタバコやアルコールを楽しむことが継続されている。節分の豆まきでは「写真を撮って」とはしゃぐ姿もみられた。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルの中にフェイスシートとして生活歴、既往歴、利用の経過等をまとめています。新しく知り得た情報も定期的に書き加えており、職員間でも共有しています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の見守りの中で状況に合わせた支援が出来る様にしています。体調や気分によって、洗濯たたみ等のお手伝いをして頂いたり、お散歩をしたり、お部屋でゆっくりされたりと、それぞれのペースで過ごされています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議やサービス担当者会議の時はもちろん、ご面会の際にもご家族との会話の機会を持ち、必要があれば、医師などの関係者からの意見も伺いながら、介護計画の作成をしています。	介護計画の写しを個人記録に差し入れ、全員で計画を共有している。手洗いのペーパータオルを自室の床に敷き詰めた入居者があり、転倒しやすい状況を毎日アイデアを出し合い支援しているが、毎月の職員会議でも気付きや提案、モニタリングの結果を介護計画の変更につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様それぞれの様子は介護記録に記録し、それに加えて、伝達が必要な事な事は申し送りノートを活用し、職員間の情報の共有を図っています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ここの状況を職員全員が共有し、どのような変化にも迅速に対応ができる様に努めています。ご家族様の面会時などに日頃の様子を伝える中でご家族のご希望もお聞きし、対応しています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の担当者、地区の区長、連携医をはじめとし、介護相談員や担当のケースワーカーの方々の協力を得ています。グループホーム協議会や地域密着型サービス連絡会にも参加しています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医による往診で定期的な健康管理を受ける事ができます。ご希望によっては専門医への受診や歯科の訪問診療も対応しています。受診結果はその都度ご家族にお知らせしています。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援しているが、協力医の訪問診療を受診される方がほとんどである。医療連携で訪問看護ステーションの定期的な訪問もあり、体調変化の早期発見や予防を行っている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護師が来設した際に、状況報告を行い、また、緊急時の24時間のオンコール対応で医療面でのサポートをしています。連携医とも連絡を取り合い体調管理をし、必要時には受診出来る様にしています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院のソーシャルワーカーと連絡を取り合い、早期の退院に向けて対応しています。入院中もご家族と連携し、退院後の生活について話し合い、不安なく治療に専念して頂けるようにしています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の看取りについては、入居時に看取りの事前確認書を作成し、ご本人、ご家族に説明の上、同意を頂き署名捺印を頂いていますし、折にふれご家族と話し合っています。	入院されていた入居者が最後をホームで迎えたいと強く希望し、ホームで最後の一週間を過ごされた、病院では食欲のなかった入居者がホームでは笑顔になり、みんなと一緒に食堂で最後の日まで食事をされ、家族から感謝の言葉をいただいた。今後は、協力医や訪問診療医と連携して本人や家族の希望に添えるように取り組んでいく予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署からの応急手当や初期対応の訓練を定期的に行う様になっています。緊急時の対応についてはマニュアルを作成し、職員間で共有しています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練を計画しています。職員の役割分担、地区の住民、区長さんにも協力をお願いし、体制を築いています。	消防署の協力をお願いし、3月に避難訓練を実施する予定である。専門業者によって自動通報装置や消火器、スプリンクラーの点検を受けている。緊急連絡網を作成し、AEDや救急蘇生法を受講している。	運営推進会議で避難訓練をお知らせし、地域の方や家族の参加や協力での訓練の実施を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉使いには十分気をつけて声かけを行っています。勉強会でもプライバシーの保護についてや人格を尊重する事を学び理解しています。	呼びかける際には家族の了解を得て、下の名前や「先生」等、本人の気に入った呼びかけをしている。職員も「りんごちゃん」と呼ばれることもあり、入居者にとっては孫やひ孫の感覚で、ゆったりとした対応をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限りご自身で決めて頂ける様にしています。「～しますか？」等の言葉かけの工夫でご本人が希望を表しやすい様に配慮しています。自己決定が難しい方についてはご家族と話し合いながら行っています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の性格やペースに合わせた助言を心掛けています。かけがえのない1人の人間として、残りの人生を穏やかに、楽しく過ごして頂けるよう心掛けています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度、訪問の床屋さんが散髪とお顔そりに来られ、皆さま楽しみにされています。毎日切るお洋服も出来るだけご自身で選んで頂ける様にしています。お化粧等楽しめる方もおられます。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	対面キッチンで作っている音や臭いを感じながら、自然と食欲を刺激されているようです。その方に合った大きさや固さにしています。食前の挨拶は当番制で入居者様の当番制で行っています。	食事の献立は、入居者と相談しながら決めて買い出しに一緒に行くこともある。若い職員が食事当番になった時には、入居者からアドバイスをもらったり、旬の食材を使って季節感を大切に調理している。口腔体操を行い、嚥下や咀嚼に配慮された食事を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や食事はその方に合わせて提供しています。摂取状況は毎食確認し記録しています。(水分量も同様)。また週に一度体重測定を行い、体重の変化にも注意しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを励行しています。義歯は週2回洗浄剤にて消毒しています。訪問歯科による定期管理もご希望により行っています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレで排泄する事を基本と考え、安易なおむつの使用はしない様にしています。排泄パターンを把握し声かけや誘導で失敗を少なく出来る様努めています。	一人ひとりの排泄パターンやサインを把握し、入居当初は失禁が多くても、誘導や声かけで徐々に失禁の回数が減少している方が多い。紙パンツや夜間、ポータブルトイレを使用されたり、布おむつを使用している方も居て、多様な支援が行われている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の献立の工夫や適時水分補給を行い、軽い運動も行いながら、出来るだけ薬に頼らない自然な排便があるよう取り組んでいます。排便チェックをしており、便秘の場合は医師の処方に沿って服薬の介助も行います。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1対1の支援を基本にしていますが場合によって2人体制での入浴介助も行います。洗身、洗髪、更衣はご本人の出来る事はして頂きながらゆくりと入浴して頂きます。	冬場は週2回を基本に、午前中から入浴を支援している。拒否される方はいないが「1番風呂がいい」と言われる入居者には「〇〇さんは今日、病院だから」と言葉をかけ、全員が1番に入れるように工夫し、菖蒲湯や柚子湯等の季節感を楽しんでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢者である事を考慮し、毎日、昼食後にはお昼寝の時間を作っています。週に1度はシーツ交換、天気の良い日は布団の天日干しをし、気持ちの良い寝具で休んで頂いています。また、夜間の安眠の為に日中の活動も促しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際は名前、日付、等の確認を必ず行い、ご本人に手渡しし、確実な服薬が出来る様似しています。内服の変更があった場合などは、申し送りや職員会議等で伝達し、職員全員が把握出来る様にしています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品はご家族と話し合いながら、体調に障りがない程度に楽しんで頂いています。その方に合わせてお散歩や買い物、家事(配膳、下膳、等)をして頂いています。その場の入居者様の状況に合わせて対応しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	必要時の受診の付き添いや敷地内外へのお散歩、お買い物の支援等を行っています。季節ごとのお花見や外での食事会等も計画しています。ご家族の協力を得て外出や外泊を楽しまれている方もいます。	介護タクシーを利用して病院受診に同行したり、家族と外出される入居者もいる。広い敷地内を散歩することで四季の移ろいを感じたり、外出気分を味わっている。寒い季節の節分は、ウッドデッキから外に向けて豆をまいたり、鬼のお面を被って楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室にて現金を所持する事は基本的にはしてませんが、施設にてお小遣いをお預かりし、ご本人やご家族の希望に合わせ買い物の代行を行っています。時には職員と共に買い物に外出される事もあります。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様のご希望時には電話を掛けたり、手紙を届けたりと言った支援もしています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや洗面は清潔を心掛け、居室のポータブルトイレもこまめに掃除を行い、臭いにも配慮しています。ホールの窓からは敷地内の庭木や周りの田園風景を眺めることができ、季節を感じながら過ごして頂いています。	明るいいリビングでは、全面ガラスの向こうに里山の風景が広がり、昼食後の午睡から目覚めた入居者はテレビを見たり、話をしながらゆったりと寛いでいる。温度や臭いに配慮され、台所や事務所に常に人の気配を感じながら安心して暮らしている。浴室と脱衣室はリビングとの温度差が生じないように配慮して入浴を支援している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の座席は入居者様の意向も踏まえながら配置しています。ホールのソファも大きめとなっており、入居者様同士が近すぎず遠すぎずの距離が保てる様工夫しています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンとベッド、作り付けのクローゼット以外はご本人の馴染の物を使って頂きます。ご家族の写真や飾ったり趣味のものを置かれたり、お仏壇を置かれるなど皆様それぞれが心地良く過ごせるよう配慮しています。	居室は全員、ベッドを使用しているが寝具は各自が気に入りのものを持ち込んでいる。手すりが設置され、大きなクローゼットに荷物が整理されている。自宅から馴染みのタンスや椅子を持ち込んだり、家族の写真を飾って落ち着いた暮らしができています。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内はバリアフリーの作りとなっており、廊下やトイレに手すりも設置しています。居室の入り口には、入居者のお名前と共にご本人のお写真を飾る事で分かりやすくしています。		